**聖霊降臨節第13主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年8月20日**

**「心を一つにして」**

**詩編120編1～2節**

**120:1 【都に上る歌。】苦難の中から主を呼ぶと／主はわたしに答えてくださった。**

**120:2 「主よ、わたしの魂を助け出してください／偽って語る唇から、欺いて語る舌から。」**

**使徒言行録5章12～16節**

**5:12 使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議な業とが民衆の間で行われた。一同は心を一つにしてソロモンの回廊に集まっていたが、**

**5:13 ほかの者はだれ一人、あえて仲間に加わろうとはしなかった。しかし、民衆は彼らを称賛していた。**

**5:14 そして、多くの男女が主を信じ、その数はますます増えていった。**

**5:15 人々は病人を大通りに運び出し、担架や床に寝かせた。ペトロが通りかかるとき、せめてその影だけでも病人のだれかにかかるようにした。**

**5:16 また、エルサレム付近の町からも、群衆が病人や汚れた霊に悩まされている人々を連れて集まって来たが、一人残らずいやしてもらった。**

**「心を一つにして」今日の説教題です。何か問題が起こった時に心を一つにしてその問題に対処する、誰もが同じ気持ちで取りくむ、それは言うのは簡単ですが、実際に心を一つにしてというのは難しいところがあります。人それぞれ考え方も違いますし、それぞれの置かれている立場も違います。生活環境も違いますから異なった考えを持つというのはある意味自然な事なのかもしれません。今のロシアや北朝鮮、かつての日本のように思想統制、言論統制をして、異なった考え方を認めない、誰もが同じでなければならない、そのように強制的に心を一つにするということは大変恐ろしいことです。**

**ペンテコステに誕生した最初の教会は「心を一つにして」とか「一つ」ということがよ**

**く記されてあります。私たちも読み進めてきました。例えば2：43以下に最初の教会の様子が記されてあります。その44節以下には**

**「2:44 信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、**

**2:45 財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。**

**2:46 そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、**

**2:47 神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。」とあります。**

**「皆一つになって」「心を一つにして」「一つにされた」最初の教会がどんどん人数が増えて成長しても一つであった、それは強制的に一つにならなければならないということではなく、イエス・キリストの十字架と復活の救いの恵みによって自然と一つになっていったのです。さらに教会は外からの迫害の恐れの中にあっても4：24にありますように「これを聞いた人たちは心を一つにし、神に向かって声をあげて言った。」と心を一つにして教会皆で祈りました。順調に歩み成長する教会、さらには迫害という危機にあっても教会は心を一つにして祈り共に恵みを分かち合い歩みを進めてきました。**

**しかし、教会といえどもやはり人の集まりです。罪赦された罪人の集まりですから、全く問題がないわけではなかったのです。アナニアとサフィラの一組の夫婦が起こした献金偽装事件がありました。神様を欺いたアナニアとサフィラの夫婦が献金をごまかして皆からちやほやされ、自分たちを大きく見せようとしたのですが、ペトロに鋭く指摘されて倒れて息絶えたのです。これはやはり最初の教会にとって非常に大きな出来事でした。そして11節に「教会全体とこれを聞いた人々は皆、非常に恐れた」とありますように、改めて神様を神様として崇め礼拝することの大切さに教会は気付かされたのです。この事件は教会の人々が自らの信仰を顧みる機会となったともに、教会にとってはやはり一つの危機でありました。これまで思いも心もまた祈りも恵みも全てが一つだと思っていた教会、それは決して強制されてでなく、あくまでも信仰による一致恵みによる一致で心を一つにして教会が歩んでいると思っていたのですが、実は一つになれていなかった、やはり人の集まりですのでそこに人の思いがあるという事実を突きつけられたのです。**

**そのような教会の危機の中にあって、使徒たちは「ソロモンの回廊」に心を一つにして集まり多くのしるしと不思議な業を行ったのです。それはイエス・キリストの十字架と復活の福音を語る伝道をその「ソロモンの回廊」で心を一つにして行ったのです。**

**その結果最初はあえて仲間に加わろうとしない人たちもいましたが、多くの男女がイエスを主と告白し、信徒の数はますます増えていったのです。さらに人々は病気に悩み苦しむ人を連れてきて、一人残らず癒されたのです。**

**私たちは使徒たちが心を一つにして集まり伝道をそして多くの奇跡をおこなった場所が「ソロモンの回廊」であることに注目したいのです。「ソロモンの回廊」この名前を聞いてピンとくる方もおられると思います。そうこの「ソロモンの回廊」は使徒言行録で前に出てきました。3：11です。**

**「さて、その男がペトロとヨハネに付きまとっていると、民衆は皆非常に驚いて、「ソロモンの回廊」と呼ばれる所にいる彼らの方へ、一斉に集まって来た。」と書かれています。**

**生まれつき足の不自由な男性がエルサレム神殿の「美しの門」で物乞いをしていて、そばを通りかかったペトロとヨハネがその男性の足を癒します。その様子を見ていた人々は「ソロモンの回廊」にいたペトロたちのもとに押しかけます。そこでペトロは口を開き、人々に自らの罪を悔い改めることとイエス・キリストの福音を語ります。その結果、時の権力者たちに捕らえられて「二度とイエスのことを話すな」と脅されたということがありました。**

**それが「ソロモンの回廊」なのです。ペトロが説教をした場所です。ですから使徒たち、さらには教会にとって初めて外に出て行って伝道を行った場所です。しかし、そのことによって初めて迫害にあった場所です。そして、今度その場所でイエス・キリストのことを語ることを固く禁じられていますので、そこで伝道をすれば再び迫害に会うことは目に見えている場所なのです。事実、今日の御言葉のすぐ後の17節以下には使徒たちは時の権力者たちに捕らえられ迫害を受けたことが記されてあります。そうなることは分かっているのに使徒たちはそして教会はあえて「ソロモンの回廊」で伝道をしたのです。それはいったいなぜなのでしょうか。私たち普通に考えれば他の場所で伝道をし、迫害に会わない方法を選ぶと思うのです。でも使徒たちは教会はあえて困難な道を歩むのです。なぜなのでしょうか。**

**それは教会が危機にあったからです。外からの迫害という危機よりももっと大きな危機である教会の中の危機にあったからです。アナニアとサフィラの事件で揺れ動き、心が一つになりきれなかった、それは下手をすると教会が内側から壊れてしまいかねないそのような教会にとって大きな危機の中にあったからこそ、使徒たちはあえて「ソロモンの回廊」という困難が目に見えている場所に心を一つにして行って伝道をしたのです。**

**「一同は心を一つにしてソロモンの回廊に集まっていた」（12節）**

**集まる、それは使徒たちが伝道をしていただけではなくて教会一同が「ソロモンの回廊」で共に集まり礼拝をしていたと言えるのです。教会が困難な時だからこそ、改めて神を神として畏れて礼拝をする大切さを教会は知りました。その教会の最も大切な業である礼拝をあえてソロモンの回廊で心を一つにして行って、イエスキリストの十字架と復活の愛に立ち帰り、教会の頭はイエスキリストであり、イエス様が教会と共に歩んで下さる大きな恵みという教会の原点に立ち返ったのです。困難な時だからこそ心を一つにしてあえて困難な場所で礼拝を行い礼拝の大切さを共に再確認したのです。どんなときにも主が共にいて下さるその信仰にまた真実に立ち帰ったのです。**

**新型コロナウイルス感染症が日本でも流行し始め緊急事態宣言が初めて出された2020年4月に私は静岡に住んでいてある無牧の教会の礼拝説教奉仕をしていました。世の中全体が外出をすること一か所に人が集まることに非常に敏感になっていたときです。教会で集まって礼拝をすることも難しくて礼拝を休んだりオンライン礼拝に切り替えたりする教会も多くなりました。そうしてなんとか新型コロナの終息を祈り待っていた時です。**

**私が説教奉仕していた教会は集まって礼拝を続けていましたが、出席を控える方が増えてきてこれからどうしようかと悩んでいるとその教会の役員の方は正直に私に話してくださいました。そしてこうも言われました「私は先生と二人だけになっても礼拝は続けます」私はその方の固い決意にはっとさせられました。それまで正直私自身も「こんな大変な時に集まって礼拝をするのってどうなのかな」と悩み迷いながら奉仕をしていました。そんな私の頭をハンマーで叩かれた思いでした。「二人だけになっても礼拝をする」それは教会が礼拝をしないということはありえないということです。どんな困難な状況にあっても、いえ困難な状況だからこそたとえ牧師と役員と二人だけでも礼拝をしてその音声を配信し、それぞれの家庭での礼拝を豊かにするのです。御言葉に養われて新たな一週間の歩みを始めるのです。皆さんにはご自宅で礼拝を守っていただくにしても、決して礼拝自体を止めない。教会が教会たるゆえんの教会が教会であるために最も大切な礼拝を困難な状況だからこそ決して止めないのです。**

**結局はしっかりと対策をして少ない人数ながらも毎週の礼拝は続けました。二人だけになることはなく、細々とですが礼拝を続けました。緊急事態宣言が解除され教会に人が戻ってきました。その後も流行の波は繰り返しましたがその度に対策を考えて一度も礼拝を休むことなく歩みました。心を一つにして礼拝を大切にする歩みをしました。今はその教会は新しい牧師を迎えて喜びの歩みをされています。私はその教会にまた役員の方に多くの大切なことを教えていただきました。**

**諏訪教会は今回一つの危機にあったと私は思っています。20日の礼拝をどうするか、そのことに対して私は「たとえ無会衆でも礼拝は続けたいです」と長老の皆さんに伝えました。**

**幸に今日こうして共に先週と同じように礼拝ができることを心より感謝しています。「皆さんが安全に集えることを祈っています」とメールで下さる方もいて私は大変励まされました。危機の状況にあるからこそ心を一つにしてどのような形であっても教会にとって最も大切な礼拝を守るのです。困難な状況だからこそ、心を一つにしてあえて困難な場所で礼拝をし伝道をし、イエス様の十字架と復活の愛に立ち帰りどんなときでもイエス様が共に歩んで下さるその恵みを再確認した最初の教会のように、私たちも心を一つにしてこの礼拝を通して十字架と復活のイエス様の愛に立ち帰り、どんなときでも私たち諏訪教会と共に歩んで下さるイエス様の大きな愛に感謝して歩みたいと思います。**